

EU および欧州諸国の中国政策の転換：レジュメ

2020年10月28日（12時～14時） 鹿島平和研究所報告

田中 素香（東北大学／中央大学）

☆ 構 成 * * * *

I EU中国関係：「転換」はなぜ起きたのか／II 中国関係の転換：「専守防衛」から「攻撃的防衛」へ／III 欧州における「一带一路」：東欧の幻滅・南欧の依存／IV EU中国関係転換の将来：米国と新型コロナ * * * *

I EU中国関係：大歓迎から批判への転換はなぜ起きたのか

○21世紀 2015年まで EU加盟国は中国大歓迎（貿易・FDI：利益重視）（「一带一路」：東欧諸国の歓迎） 2015年「中国製造2025」発表→先進国にショック

○転換 2016年ショック（ドイツ） 16年を境に転換へ（徐々に強まる）

貿易：EUはMES要請拒否（ダンピング体制維持）、反ダンピング税引き上げ

FDI：Kuka買収でドイツ世論硬化

○2017年 FDIスクリーニング制度、欧州委員会が提案（→19年法制化）

○2018年 「一带一路」工事への東欧2カ国の批判

○2019年3月 欧州委員会、中国を“systemic rival”「体制的ライバル」と評価→体制間競争（先進国間競争とは異質の競争）展開へ [中国は「利益の源泉」から戦略的・体制的競争相手へ] ← [米ペンス副大統領：中国は「戦略的競争相手 strategic competitor」（18年10月ハドソン研究所講演）]

○2020年 英国、EU・加盟国とも多面的な中国批判。

○欧州委員会は「攻撃的防衛」方針を提出

●貿易（1997年～2019年）のデータ

●FDI発展のデータ：中国のEU諸国へのFDI各種

II 専守防衛から攻撃的防衛へ

○専守防衛の時代：

(1) 貿易 2000年代：反ダンピング税で防衛／2016年：MES要請拒否、反ダンピング税の税率引き上げ

(2) FDI EU27カ国が中国と個別にFDI協定：FDI歓迎／2009年 リスボン条約発効、EUにFDI権限／2012年 EU、包括的投資協定（CAI）交渉要求／2014年 CAI交渉開始→中国拒否で未だ合意せず／2016年 Kuka買収、Aixtron買収事件→独FDI審査法強化、

●17年EU・FDIスクリーニング制度提案→19年法制化（20年秋発効）：専守防衛プラス

○2020年、攻撃的防衛（中国の国内制度・政策への攻撃を含む）フォンデアライエン欧州委員会が方針提案 (1) 国境炭素税、(2) 単一市場での補助金規制、(3) SOE競争力ニ

ユートラル（包括的投資協定交渉において要求）

- ファウウェイ 5G 問題：英仏独伊、東欧、EU には安全保障の権限はない
- 価値観と体制の問題：価値の問題→地政学的アクターとしての EU、習近平・中国への大衆レベルの強い批判（2020 年）

Ⅲ 欧州における「一帯一路」：東欧の幻滅、南欧の依存

- EU の「失われた 10 年」vs 「中国の 10 年」：2007～2016 年
リーマン危機（2008/09 年）→ユーロ危機（2010-13 年）→難民流入 & Brexit
- リーマン危機対応→中国 4 兆元投資：中国の欧米観転換「モデル」から軽蔑へ]
- 財政緊縮の南欧諸国支援（中国はヨーロッパをターゲットに設定？）
- ポーランド、2010 年中国に通商拡大など要請→「一帯一路」へ」／12 年秋第 1 回「16+1」首脳会議ワルシャワ。13 年秋「一帯一路」に「16+1」を包摂（「中国中東欧国家合作」）
- 中国、直接投資 160 億ドル約束、実施は 70 億ドル未満（2012～2018 年）：35 億ドル？
資金貸付、インフラ工事の設計から実施まで中国企業が実施。対中国：貿易赤字の増大
- 東欧諸国の批判：ポーランド、チェコ、ルーマニア、セルビア
- 友好国：ハンガリー、ギリシャ、ポルトガル、イタリア

Ⅳ EU 中国関係転換の将来：米国と新型コロナ

- トランプ第 2 次政権：3 分型世界への深刻化、米国の国際的地位の低下が続く
- バイデン政権に期待：米欧連携による中国政策の厳格化
- 新柄コロナ：コロナ抑制と経済とのトレードオフ→EU 諸国で第 2 波=2 番底→経済好調の中国へに依存高まり、「攻撃的防衛」路線を貫徹できないおそれ

おわりに

- EU & 加盟国の中国関係転換：理由：
 - 1) 中国：利益の源泉から競争相手へ（ハイテク技術窃取、中国進出企業の待遇も）
 - 2) 価値的・体制的問題：EU の価値+地政学的アクターとしての地位確保対応：①貿易 & FDI：専守防衛の強化／②同：攻撃的防衛の方針：提示／③価値・体制：人権問題批判強化／④「一帯一路」：東欧幻滅、but ハンガリーと南欧／⑤英国：EU と歩調共通（EU より措置は強硬）
 - 1) 中国関係転換は継続するか？ / 対応①③④：継続／対応②：バイデン政権と協力できれば、展望あり→中国関係転換の増加関数と予想。／第 2 期トランプ政権なら：世界 3 分割型が強まる。米国・EU の国際的地位は中国に対して相対的に下落／対応⑤：経済に不安
 - 2) 新型コロナ危機の影響：中国関係転換を減衰させる要因／ワクチンの早期実施に期待